

## 基礎実習前後における自己教育力の変化

梅橋操子	多久島寛孝	三村孝俊	永田華千代
徳永郁子	吉田一子	弓掛和恵	山口裕子
西谷美幸	田中英子	嶋田かをる	古賀和子
北野正文	川本起久子	川端伸次	亀山亜弓
大澤早苗	内山久美	岩瀬裕子	山本勝則
井上悦子			

衛生技術学科および看護学科の1年生を対象に、衛生技術学科では検査学入門、看護学科では基礎看護学実習Ⅰの実習開始前（実習前）および実習終了後（実習後）に自己教育力に関するアンケート調査を実施し、基礎実習の自己教育力に及ぼす効果を調べた。調査は梶田らが作成した「自己教育力調査項目」を参考に40項目の調査票を作成して実施した。衛生技術学科、看護学科いずれにおいても、総得点では実習前と実習後の間に有意差はなかった。学科間の比較では、実習前および実習後の両方で、衛生技術学科と看護学科間に有意差が認められた。次に調査した40項目を自己教育性のⅠ～Ⅳの4つの側面に分類して分析した結果、側面Ⅰ「成長・発展への志向」が高く、Ⅳ「自信・プライド・安定性」が低かった。また、衛生技術学科の側面Ⅳにおいてのみ、実習後に有意の上昇が見られた。

キーワード：自己教育力、アンケート調査、基礎看護学実習Ⅰ、検査学入門

### Ⅰ. はじめに

今日の急激な医療の進歩に対応し、医療専門職としてその先端技術の最前線で職務を遂行するためには、学生時代はもちろん、卒業後の学習が必須である。卒業後の継続的な学習を可能にするのは、自分自身で学ぶ意欲をもち、主体的に変化に対応する能力<sup>1)</sup>、すなわち自己教育力であり、これはまた、学生時代の学習効果を高めるためにも非常に重要である。梶田<sup>2)</sup>によると、自己教育力とは「自分自身で学び、成長、発展してゆける力」で、Ⅰ. 成長・発展への志向、Ⅱ. 自己の対象化と統制、Ⅲ. 学習の技能と基盤、Ⅳ. 自信・プライド・安定性の4つの側面から構成される（図1）。自己教育力に関する検討は看護の分野では多くの研究グループで検討されており<sup>3-7)</sup>、また、1999年には看護学教育方法研究会が設立されて検討が開始され、その結果がQuality Nursingに連載中である<sup>1,8),9)</sup>。しかし、各種のイベントが自己教育力に及ぼす影響については、ほとんど調査されていない。また、臨床検査の分野を含め、他の医療職種における自己学習力に関する

研究報告はあまり見当たらない。そこで、熊本保健科学大学（以下本学とする）でも学生の自己教育力

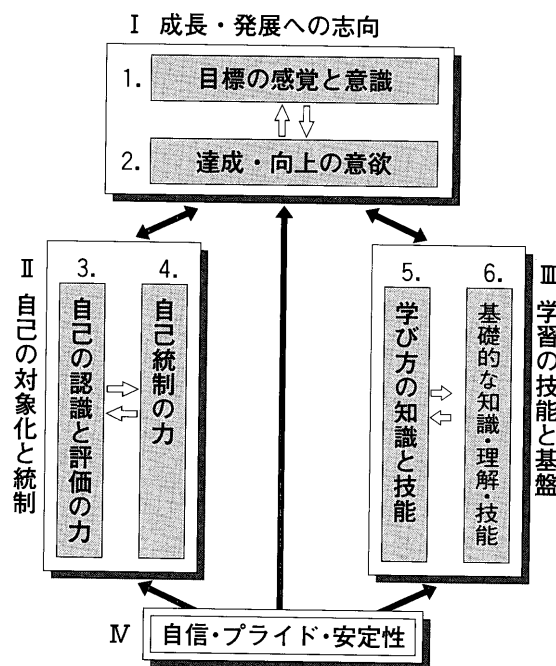


図1 自己教育の構えとキー主要な諸側面  
（出典：梶田毅一「自己教育への教育」）

育成に関心をもつメンバーが集まり2003年7月に研究会を立ち上げ、看護学科および衛生技術学科の学生を対象に自己教育力に関する調査・研究を継続的に行うことにした。本研究会の設立意義、目的等は西谷らの論文<sup>10)</sup>で紹介するが、2003年度は1年生を対象に4回のアンケート調査を行う予定である。本報告では、基礎実習前および実習後に実施した2回のアンケート調査結果について述べる。

## II. 方法

### 調査対象

2004年度に本学保健科学部に入学した学生に対して、衛生技術学科では検査学入門、看護学科では基礎看護学実習Ⅰの実習開始前（実習前）の9月と実習終了後（実習後）の10月の2回にわたってアンケート調査を実施した。有効回答は、衛生技術学科では実習前109名（男性32名、女性69名、未記入8名）、実習後110名（男性26名、女性73名、未記入11名）、看護学科では実習前108名（男性6名、女性94名、未記入8名）、実習後108名（男性6名、女性96名、未記入6名）であった。

### 倫理的配慮

アンケート調査にあたっては、調査の趣旨、および調査への参加・不参加は自由であること、また学籍番号や氏名の記入は不要でプライバシーは保護されることなどを口頭および文書で説明し、同意の得られた学生を対象とした。

### 研究方法

#### 1. 調査内容

梶田<sup>2)</sup>が作成した側面Ⅰ、ⅡおよびⅣに関する30項目の「自己教育力調査項目」に、西村ら<sup>11)</sup>が追加した側面Ⅲに関する10項目を加えた40項目の調査票を用いて、アンケート調査を行った（表1）。この調査票の内容については、西村<sup>12)</sup>をはじめ、多くの研究者によって既に評価されているものである。

回答は、「はい・いいえ」の2件法とし、「はい」に1点、「いいえ」に0点を配し、数量化した。ただし、豊田らの方法<sup>5)</sup>に準拠し、逆転項目（Ⅰ-8, 9, 10, Ⅱ-17, 18, 19, Ⅲ-26, Ⅳ-31, 33, 34, 35）については、逆配点とした。

#### 2. 分析方法

調査対象者の個人得点を算出し、衛生技術学科および看護学科別に実習前後の比較、また両学科の2回の調査全体での実習前後の比較を行った。次に40項目を先に述べた自己教育性の側面ⅠからⅣに分類して集計した結果についても、同様の比較を行った。更に全40項目ごとに、衛生技術学科および看護学科それぞれの実習前および実習後、ならびに2回の調査全体の平均点を算出し、項目ごとの比較を行った。

検定にあたっては、まず正規性の検討を行い、正規性を示す2群間の場合はF検定により等分散性を検定した後、student's t-testにより有意差検定を行った。それ以外の場合は、Mann-Whitey's U-testにより検定した。危険率は、いずれの場合においても5%とした。

## III. 結果

### 実習前後の比較

個人得点の平均は、衛生技術学科の実習前で $23.29 \pm 4.84$ （平均値 $\pm$ S D）、実習後で $24.50 \pm 5.51$ 、看護学科ではそれぞれ $21.86 \pm 3.93$ 、 $22.49 \pm 4.20$ であり、衛生技術学科、看護学科のいずれにおいても実習前と実習後の間に有意差はなかった（表2）。しかし、自己教育性のⅠ～Ⅳの4つの側面について個々に分析した結果、側面Ⅳにおいて、衛生技術学科の実習前後に有意差が見られた（表3）。

### 学科間の比較

衛生技術学科と看護学科の間には、実習前および実習後のいずれにおいても有意差が認められた（表2）。また、側面別の比較では、実習前は側面Ⅲ、実習後は側面ⅢおよびⅣで、両学科間に有意差があった（表3）。

### 側面別分析

全学生の2回のアンケートの平均点は、自己教育性のⅠが $7.62 \pm 1.38$ 、Ⅱが $5.68 \pm 1.73$ 、Ⅲが $5.36 \pm 2.11$ 、Ⅳが $4.38 \pm 2.11$ で、側面Ⅰが高く、側面Ⅳが低かった。（表3）。

#### 1. 点数の高い項目と低い項目

全40項目のうち、点数の高かった項目（平均0.9点以上）と低かった項目（0.3点未満）を表4に示す。点数が高かったのは、側面Ⅰでは「1. 自分の

表1 自己教育力調査票

以下の項目について、当てはまるものに丸をしてください。1～40の質問については「はい」または「いいえ」のいずれかに丸をしてください。

学科 (衛生技術学科 看護学科)

性別 (男 女)

1. 自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい (はい いいえ)
2. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい (はい いいえ)
3. 自分でなければやれないことをやってみたい (はい いいえ)
4. 自分がやりはじめたことは、最後までやりとげたい (はい いいえ)
5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい (はい いいえ)
6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい (はい いいえ)
7. これから専門的な資格や学位などを取りたい (はい いいえ)
8. いったい何のために勉強するのだろうか、といやになることがある (はい いいえ)
9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い (はい いいえ)
10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う (はい いいえ)
11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている (はい いいえ)
12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない (はい いいえ)
13. 自分のよいところと悪いところがよくわかっている (はい いいえ)
14. 他の人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする (はい いいえ)
15. できるだけ自分をおさえて、他の人に合わせようとしている (はい いいえ)
16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している (はい いいえ)
17. 疲れている時には、何もしたくない (はい いいえ)
18. テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い (はい いいえ)
19. ちょっといやなことがあると、すぐに不機嫌になる (はい いいえ)
20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする (はい いいえ)
21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している (はい いいえ)
22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる (はい いいえ)
23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある (はい いいえ)
24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている (はい いいえ)
25. 考えていることを筋道たてて書いたり、伝えたりできる (はい いいえ)
26. たとえ話などを持ちて人にわかりやすく、説明するのが苦手である (はい いいえ)
27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている (はい いいえ)
28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある (はい いいえ)
29. わからないことがあると、すぐ人に聞くのが効率的と思う (はい いいえ)
30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる (はい いいえ)
31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある (はい いいえ)
32. 他の人にばかにされるのは、がまんできない (はい いいえ)
33. ときどき、自分自身がいやになる (はい いいえ)
34. 何をやってもだめだと思う (はい いいえ)
35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある (はい いいえ)
36. 今の自分が幸福だと思う (はい いいえ)
37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う (はい いいえ)
38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい (はい いいえ)
39. 今の自分に満足している (はい いいえ)
40. 自分にもいろいろとりえがあると思う (はい いいえ)

ご協力ありがとうございました。

表2 衛生技術学科および看護学科の実習前後の比較

	衛生技術学科	看護学科	全体
実習前	23.29 ± 4.84 <sup>1)</sup>	21.86 ± 3.93	23.51 ± 5.00
実習後	24.50 ± 5.51	22.49 ± 4.20	22.58 ± 4.46
全体	23.90 ± 5.21	22.18 ± 4.07	23.05 ± 4.46

1) 全40項目平均点 (平均値 ± S D)

\* : p &lt; 0.05 \*\* : p &lt; 0.01

両学科での実習前後に有意差はなかった

表3 側面別分析

		I	II	III	IV
衛生技術学科	実習前	7.90 ± 1.21 <sup>1)</sup>	5.67 ± 1.70	5.50 ± 1.95	4.22 ± 2.24
	実習後	7.82 ± 1.22	5.89 ± 1.87	5.87 ± 2.12	4.91 ± 2.45
看護学科	実習前	7.42 ± 1.52	5.55 ± 1.70	4.82 ± 2.01	4.07 ± 1.70
	実習後	7.36 ± 1.49	5.60 ± 1.65	5.22 ± 2.26	4.31 ± 1.87
全体		7.62 ± 1.38	5.68 ± 1.73	5.36 ± 2.11	4.38 ± 2.11

1) 各10項目平均点 (平均値 ± S D)

\* : p &lt; 0.05

表4 点数の高い項目と低い項目

区分	側面	項目	質問項目	得点 <sup>1)</sup>	
				技術科	看護科
点数の高い項目	I	1	自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい	0.97	0.96
		2	たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい	0.91	0.88
		3	自分でなければやれないことをやってみたい	0.93	0.93
		4	自分がやりはじめたことは、最後までやりとげたい	0.98	0.94
		6	社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい	0.93	0.85
		7	これから専門的な資格や学位などを取りたい	0.96	0.96
		II	14	他の人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする	0.95
点数の低い項目	I	9	ぼんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い	0.33	0.23
		II	17	疲れている時には、何もしたくない	0.10
	18	テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い	0.40	0.25	
	IV	31	今のままの自分ではいけない、と思うことがある	0.04	0.01
		33	ときどき、自分自身がいやになる	0.17	0.09
		35	自分のことを、はずかしいと思うことがある	0.29	0.21
		39	今の自分に満足している	0.33	0.18

1) 2回の調査の平均

点数の高い項目は平均点が0.9以上のもの、点数の低い項目は平均点が0.3未満のものを集計した。

能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい」、  
「2. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい」、  
「3. 自分でなければやれないことをやってみたい」、  
「4. 自分がやりはじめたことは、最後までやりとげたい」、  
「6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい」、  
「7. これから専門的な資格や学位などを取りたい」の6項目と最も多く、「成長・発展への志向」の側面が強いことがわかった。他の側面では、Ⅱの「自己の対象化と統制」の1項目（「14. 他人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする」）のみであった。一方、点数が低かった項目は、側面Ⅰでは「9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い」（看護学科のみ）の1項目で、側面Ⅱでは「17. 疲れている時には、何もしたくない」、  
「18. テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い」（看護学科のみ）の2項目、側面Ⅳの「自信・プライド・安定性」では「31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある」、  
「33. ときどき、自分自身がいやになる」、  
「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」、  
「39. 今の自分に満足している」（看護学科のみ）と4項目あった。特に側面Ⅳの31では、衛生技術学科の平均が0.04点、看護学科が0.01点と、ほとんどの学生が今のままの自分ではいけないと思っているという結果であった。

## 2. 実習前後で有意差があった項目

実習前後で有意差があった項目は、衛生技術学科では、側面Ⅱの「12. 自分の考えや行動が批判されても腹をたてない」、側面Ⅳの35および「39. 今の自分に満足している」の合計3項目で、看護学科では側面Ⅲの「30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる」の1項目であった。

## 3. 側面Ⅳの分析

両学科間に有意差が認められ、また衛生技術学科では実習前後で有意の上昇があった側面Ⅳを細かく分析した（表5）。両学科の平均点に有意差が認められたのは、「33. ときどき、自分自身がいやになる」（衛生技術学科0.17, 看護学科0.09）、「36. 今の自分が幸福だと思う」（0.67, 0.76）、「37. 自分のやることに自信を持っている方だと思う」（0.48, 0.38）、「39. 今の自分に満足している」（0.33, 0.18）および「40. 自分にもいろいろとりえがあると思う」（0.78, 0.85）の5項目であった。また、両学科間の実習前後での平均点の変動について分析したところ、「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」と「39. 今の自分に満足している」の2項目で変動がみられた。すなわち、35では衛生技術学科では実習前0.19から実習後は0.38点と有意に上昇していたが、看護学科では0.22から

表5 側面Ⅳの分析

番号	質問項目	得点					
		衛生技術学科			看護学科		
		実習前	実習後	平均	実習前	実習後	平均
31	今のままの自分ではいけない、と思うことがある	0.03	0.05	0.04	0.02	0.01	0.01
32	他人にばかにされるのは、がまんできない	0.59	0.63	0.61	0.59	0.58	0.59
33	ときどき、自分自身がいやになる	0.14	0.20	0.17 <sup>1)</sup>	0.06	0.12	0.09 <sup>1)</sup>
34	何をやってもだめだと思う	0.71	0.75	0.73	0.67	0.68	0.67
35	自分のことを、はずかしいと思うことがある	0.19 <sup>2)</sup>	0.38 <sup>2)</sup>	0.29	0.22	0.19	0.21
36	今の自分が幸福だと思う	0.65	0.68	0.67 <sup>1)</sup>	0.77	0.76	0.76 <sup>1)</sup>
37	自分のやる事に自信を持っている方だと思う	0.46	0.50	0.48 <sup>1)</sup>	0.35	0.40	0.38 <sup>1)</sup>
38	生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい	0.44	0.54	0.49	0.43	0.49	0.46
39	今の自分に満足している	0.26 <sup>2)</sup>	0.40 <sup>2)</sup>	0.33 <sup>1)</sup>	0.15	0.21	0.18 <sup>1)</sup>
40	自分にもいろいろとりえがあると思う	0.77	0.79	0.78 <sup>1)</sup>	0.84	0.86	0.85 <sup>1)</sup>

1)：両学科の平均点に有意差あり

2)：実習前後に有意差あり

0.19点、また39は、衛生技術学科では0.26から0.40点と有意の上昇が見られたが、看護学科では0.15から0.21点と有意の変化はなかった。

#### IV. 考 察

本学学生の自己教育力に関するアンケート調査では、自己教育のⅠ「成長・発展への志向」の側面が全学生平均で7.6点（全設問に肯定的回答の場合は10点となる）と高く、一方、Ⅳ「自信・プライド・安定性」は4.4点と低かった。看護学生を対象に同様の調査を行った酒井ら<sup>6)</sup>も、Ⅰが高く、Ⅳが低いと報告している。また、小林ら<sup>4)</sup>は看護継続教育機関の学生に対して行ったアンケート調査で、Ⅰが最も高く、次いでⅡ、Ⅲ、Ⅳの順であったと報告している。梶田<sup>2)</sup>によれば、「成長・発展への志向」とは、自分自身の行動や技能の領域やレパートリーが、より広いもの、より高度なものとなるよう願う、といった考えを持つこと。現在あるがままの自分の姿から脱皮して、少しでも優れた存在へと自分自身を引き上げていく、といった志向をもつこと。具体的には、「目標の感覚・意識」と「達成・向上の意欲」と捉えている。従って、本学の学生は臨床検査技師や看護師になるという意思を持って入学しているため、行動や技能の領域やレパートリーが、より広いもの、より高度なるための具体的目標が存在し、それを達成しようとする意識が高いため、側面Ⅰの点数が高くなったのではないかと考える。またその目標と意識がはっきりしていることが逆に、「もっと頑張らなければ。今のままではいけない。」という気持ちを強くし、結果、側面Ⅳの「自信・プライド・安定性」が低くなっている要因と考える。これを確認するには、医療系以外の専門職育成の教育機関やその他の教育機関の学生を対象に同様のアンケート調査をする必要があるが、現代の学生の学習に対する意識調査という意味からも、今後の調査が求められる。

本学に入学して最初の実習（演習）である基礎実習が、学生の自己教育力に及ぼす影響を分析した。全項目の平均は、衛生技術学科は $23.3 \pm 4.8$ が $24.5 \pm 5.5$ 、看護学科は $21.9 \pm 3.9$ が $22.5 \pm 4.2$ と実習後では若干の上昇が認められたが、有意の差ではなく、基礎実習が自己教育力にプラスの効果を与えるという結果は得られなかった。しかし、側面Ⅳにおいて、

衛生技術学科の実習前後に有意の上昇がみられた。前にも述べたように、側面Ⅳは他の側面に比べて平均点が低く、今後特に対応していかなければならない側面である。この両学科の変化の違いを検討するため、さらに側面Ⅳを細かく分析した。この中で平均点が低かったのは、「31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある」、「33. ときどき、自分自身がいやになる」、「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」および「39. 今の自分に満足している」であった。特に31では、衛生技術学科、看護学科とも実習前、実習後を通じて0.1点以下で、ほとんどの学生が「今のままの自分ではいけない」と感じ、現在の自分を否定しているという結果であった。次に、実習前後での平均点の変動について分析したところ、35と39の2項目で両学科間に違いがみられた。衛生技術学科では両項目とも実習前から実習後は有意に上昇していたが、看護学科ではどちらの項目にも有意の変化はみられなかった。すなわち、基礎実習が衛生技術学科では自己教育力の向上にプラスに働き、看護学科ではほとんど変化を与えなかったという結果になった。

実習後の側面Ⅳで両学科に有意差があったこと、また35および39の2項目で明らかに実習前後の点数の推移に差が見られたことは、基礎実習が両学科の学生に及ぼす影響に違いがあったと考えられた。そこでこの原因を解明するため両学科の実習を比較した結果、どちらも9月末から10月の初めの集中実習（演習）で、期間は衛生技術学科で5日間、看護学科は6日間と、時期と期間はほぼ同じであった。実習内容は、衛生技術学科では専門基礎や専門科目の概要説明と簡単な演習から構成されており、学生自らが手を動かした演習を通じて、これから学習していく内容を体験するものであった。一方、看護学科の実習形態は見学実習が主体で、病院、介護老人保健施設などの施設で体験した事象について、実習後グループディスカッションを行い、対象の理解に努め、自分自身を振り返る機会を持つことを目的に実施されていた。この実習内容の違いが側面Ⅳの「自信・プライド・安定性」に対する学生の意識にどのように影響を及ぼしたかについての結論を得るには、更に学生一人一人の意識の変化を調査しなければならないが、今回の調査結果から何らかの影響があったことは推察される。

この調査研究は緒に就いたばかりであり、これま

で実施した2回のアンケート調査から多くの結論を導くことは出来なかった。しかし、今後継続的な調査を続けることにより、学生の自己教育力育成に関する有用な情報を得ることができると考える。

## 文 献

1. 田島桂子：今、看護に必要な力－自己教育力－連載をはじめるとあって、Quality Nursing, 9, 891-895, 2003.
2. 梶田叡一：自己教育への教育，明治図書，1985.
3. 森千鶴，佐藤みつ子，森下節子，他：看護短期大学学生の自己教育力に関する研究－学年別にみた自己教育力に関するアンケートの所見－，日本看護研究学会雑誌，15, 24-35, 1992.
4. 小林洋子，西村千代子，奥野茂代，他：看護婦の自己教育力の変化－看護継続教育終了1年後の自己教育に関する要因，看護教育，40, 127-132, 1999.
5. 豊田省子：看護教員の自己教育力に関連する要因－生涯学習の実態から－，自治医大看護短大紀要，9号，21-31, 2002.
6. 酒井明子：看護学生の自己教育力に関連する要因－Self-esteemの高低に焦点をあてて－，福井医科大学研究雑誌，1, 113-128, 2000.
7. 岩永秀子：看護学生の自己教育力－4年制大学生と看護専門学校生の比較－，Quality Nursing, 2, 973-980, 1996.
8. 酒井明子：今、看護に必要な力－自己教育力－自己教育力の概念と関連概念，Quality Nursing, 9, 987-993, 2003.
9. 酒井明子：今、看護に必要な力－自己教育力－自己教育力に関する文献的考察，Quality Nursing, 9, 1076-1084, 2003.
10. 西谷美幸，永田華千代，徳永郁子，他：自己教育力の動機づけとその効果－自己教育力研究会の設立と概観－，保健科学研究誌1号，97-103, 2004.
11. 西村千代子，奥野茂代，小林洋子，他：看護婦の自己教育力－卒後継続教育における一年間の変化－，日本赤十字幹部看護婦研修所紀要，10号，1-24, 1995.
12. 西村千代子，奥野茂代，小林洋子，他：看護婦の自己教育力－自己教育力測定尺度の検討－，日本赤十字幹部看護婦研修所紀要，11号，22-39, 1995.

(平成16年1月23日受理)

梅橋操子，三村孝俊，嶋田かをる，古賀和子，北野正文，川端伸次

〒861-5598 熊本市和泉町325番地

熊本保健科学大学

保健科学部衛生技術学科

多久島寛孝，永田華千代，徳永郁子，吉田一子，弓掛和恵，山口裕子，西谷美幸，田中英子，川本起久子，亀山重弓，大澤早苗，内山久美，岩瀬裕子，山本勝則，井上悦子

同 保健科学部看護学科

## Change of the Self-Directed Learning before and after Basic Practicum

Misako Umehashi, Hirotaka Takushima, Takatoshi Mimura,  
Hanachiyo Nagata, Ikuko Tokunaga, Ichiko Yoshida, Kazue Yumikake,  
Yuko Yamaguchi, Miyuki Nishitani, Eiko Tanaka, Kaoru Shimada,  
Kazuko Koga, Masafumi Kitano, Kikuko Kawamoto, Shinji Kawabata,  
Ayumi Kameyama, Sanae Osawa, Kumi Uchiyama, Hiroko Iwase,  
Katsunori Yamamoto, Etsuko Inoue

### Abstract

The questionnaire about self-directed learning was carried out for the first graders of the Department of Medical Technology and Nursing, and the effect exerted on self-directed learning of basic practicum was investigated. It was carried out before and after introduction to medical technology in the Department of Medical Technology. And in the Department of Nursing, it was carried out before and after fundamental nursing clinical experience. The question of 40 items used for the questionnaire about self-directed learning created to reference what Kajita created. In the total score there was no significant difference between before and after basic practicum at both departments, but the significant difference was accepted by both before and after basic practicum between the two. Furthermore, 40 items were classified and analyzed on four dimension (dimension I "motivation in self-growth development", dimension II "self-assessment and self-control", dimension III "skills and foundation in learning", dimension IV "confidence·pride·stability"), dimension I was high and dimension IV was low. After basic practicum the score of dimension IV basic practicum rose to significance in comparison with before in only department of medical technology.